日本総研リサーチ・アイ
The Japan Research Institute, Limited
No.2011-036
2011年7月19日
http://www.jri.co.jp

上昇するトウモロコシとエタノール価格

～ バイオ燃料と飼料需要が拡大 ～

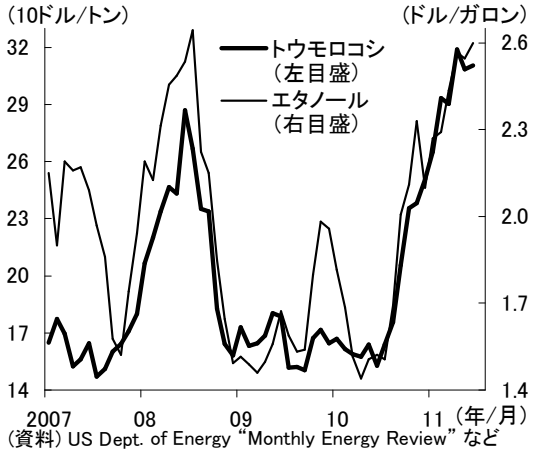
（１）昨秋来、トウモロコシ価格が急上昇（図表１）。本年2月にはトン当たり293ドルに達し、過去最高値を記録した2008年6月の287ドルを凌駕。さらにエタノール価格も昨秋来急上昇。本年7月半ばにはガロン当たり2.8ドルに達し、08年7月の2.6ドルを凌駕。原油をはじめ、大半の資源価格が08年半ばの水準に達しないなか、トウモロコシとエタノールの価格上昇が際立つ展開。

（２）主因はまず、エネルギー価格が上昇するなか、エタノール需要の急増。米国トウモロコシ生産量をみると、エタノール向けは2002収穫年度の10億ブッシェルから10収穫年度は50.5億ブッシェルと８年間で５倍に（図表２）。11収穫年度は52億ブッシェルへ一段増の見込み。

（３）次いで生肉需要の増大。生産が需要拡大に追い付かないなか、とりわけ牛肉価格が昨年末以降、急上昇（図表３）。鶏肉価格は08年春以降、高止まりが続く一方、豚肉価格は牛肉に比べれば上昇ペースが緩やかながら、昨年末来、上昇傾向。飼料向け需要が盛り上がるなか、トウモロコシの価格上昇に拍車。

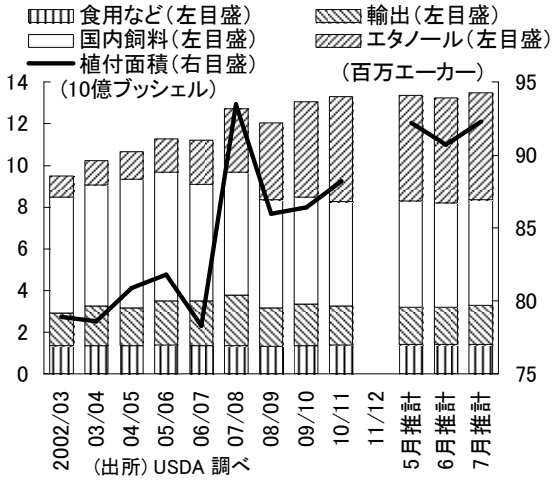
（４）米国では価格上昇を受け植付面積が再び増加（図表２）。2000年代半ばまでの８千万エーカー前後、08～09収穫年度の８千万エーカー半ばから大幅に増加。11収穫年度は92百万エーカーへ。そうしたなか、トウモロコシ価格は小麦に比肩へ（図表４）。小麦生産地と重なる地域があるなか、価格上昇が小麦からの転作を促し、食糧価格上昇加速に作用するリスク大。

（図表1）トウモロコシとエタノールの価格動向



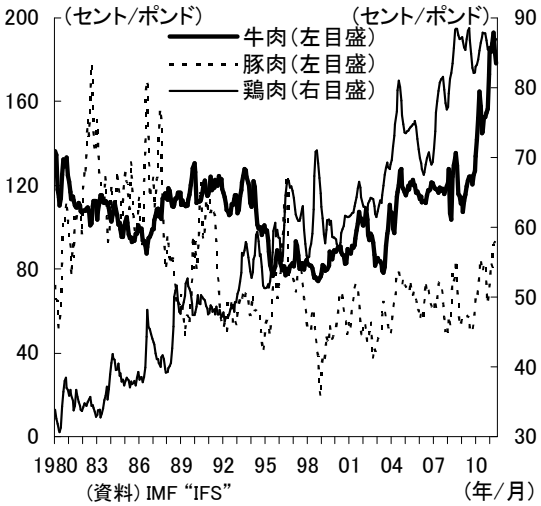
(資料) US Dept. of Energy “Monthly Energy Review” など

（図表2）米国トウモロコシの植付面積と需要量



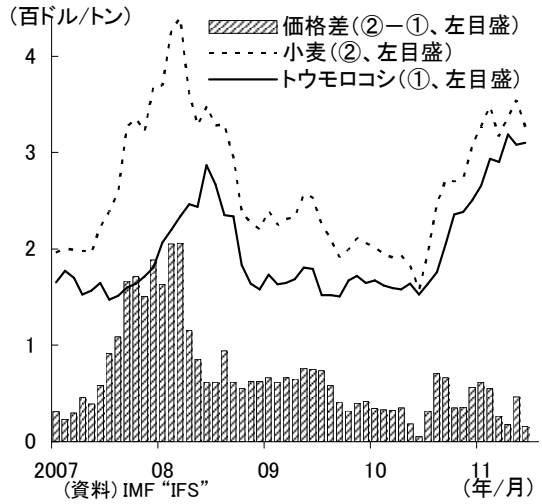
(出所) USDA 調べ

（図表3）生肉価格の推移



(資料) IMF “IFS”

（図表4）小麦とトウモロコシの価格推移



(資料) IMF “IFS”

《ご照会先》日本総研調査部　藤 井（fujii.hidehiko@jri.co.jp、03-3288-4615）